

『再会』 寸評

- ・待ち遠しいきもちが伝わってきます
- ・ m.5-8 Vn.IとIIのかけあいとてもよい
- ・ m.11-12それぞれb.3のチェロの属音が主和音への期待を高める
- ・ m.11-12 Vn.IとVa.のかけあいも意識して組みこんである
- ・ m.13-16のVn.Iの流れがなだらかできれい

完成度をさらに上げるために

- ・ 各小節の和声配置を意識しよう←特にバスのつけかた
- ・ メロディとバスの2声だけで組みあわせがうまくいっているかを確認
- ・ バスが決まったところで残りの構成音を各声部に補充すると
適当な和声配置が実現されます

- ・ m.3b.4- m4.b1とm.7b.4- m.8b.1 Vn.Iとチェロで
完全八度平行&第三音重複←響きがよくない



- ・ m.14 Vn.Iとチェロほとんどおなじ動き
→そこだけ浮いてきこえてくる



- ・ m.13-14 Va.とチェロの声部交錯 (もぐりこみ)
特別な意図がないかぎり避けたほうがよい



- ・ バスをつけるとき強拍に和声の第五音をなるべく置かないようにする
- ・ ただし、主音・第五音がリズムカルに交替する場合、
属和音とつながる流れの主和音(Ex. m.11)のときはよい

- ・ m.8b.4 Vn.IとIIがF#とGでぶつかっている
- ・ モーツァルトの弦楽四重奏のスコアをめくって
その和声配置を数小節分研究してみよう

m.=measure 小節番号のことです。
b.=beat 拍のことです。

よくがんばりました。

持魔 勉